

地域コミュニティへの新規住民の参加要因に関する研究

秋田大学 学生会員 ○前川 聖陽
 秋田大学大学院 正 会 員 鈴木 雄
 秋田大学大学院 正 会 員 日野 智

1. はじめに

現代社会において地域コミュニティの衰退が進んでいる。平成 17 年度国土交通白書によれば、住民から強く認識されている地域コミュニティ衰退の要因として、「昼間に地域にいないことによる関わりの希薄化」、「コミュニティ活動のきっかけとなる子どもの減少」に次いで「住民の頻繁な入れ替わりによる地域への愛着・帰属意識の低下」が挙げられている。人口の流入・流出が激しい地域では安定した人間関係を構築しにくく、そのことがコミュニティの形成に影響していると考えられる。すなわち、地域コミュニティを維持・発展させていくためには、地域に新しく転居してきた新規住民が地域にいち早く溶け込み、地域コミュニティに関わっていくことが重要と考えられる。本研究では、新規住民が地域コミュニティに参加する際のきっかけとなる要因を把握する。また、それらの要因と新旧住民の交流、ソーシャル・キャピタルの関係を明らかにする。

2. 意識調査の概要

本研究では、地域に以前から住んでいる旧住民を対象として、平成 30 年 12 月に意識調査を行った。旧住民の定義として、現在の居住地に 3 年以上住んでいる人とした。調査では、旧住民が新規住民に抱いている関心や交流意欲、交流の状況、新旧住民が知りあったきっかけ等について質問している。調査は秋田市内の 3 地域（雄和地区、大平台地区、山王地区）に 300 世帯 300 票ずつ、合計 900 世帯 900 票を投函配布し、276 票を回収した。雄和は農村部に位置し、昔からのコミュニティが固定されている地域、大平台は新興住宅地であり新しくコミュニティが形成されている地域、山王は市内の中心部に位置し、居住が流動的でコミュニティがあまり形成されていない地域を想定した。

3. 新規住民のコミュニティへの参加要因

(1)新規住民との交流と関心

意識調査の結果から、地域に新規住民との関わりの頻度について表 1 に示す。大平台と山王では、一緒に旅行に行く等の親密な交流はあまり行われていないが、会釈や挨拶などの基本的な交流は積極的に行われている。雄和では会釈や挨拶の頻度はそれほど高くないものの、一緒に旅行に行く等の親密な交流が行われている。

表 1 新規住民との交流頻度

新規住民との交流頻度	雄和	大平台	山王
新規住民と会釈を交わす頻度	50.0%	77.8%	71.1%
挨拶をする頻度	52.5%	66.7%	66.7%
世間話をする頻度	17.5%	15.9%	17.9%
悩みや困り事について相談する頻度	0.0%	4.8%	2.6%
食べ物などのおすそ分けをする頻度	10.0%	7.9%	7.7%
一緒に買い物に行く頻度	2.5%	1.6%	0.0%
一緒に旅行に行く頻度	25.6%	6.3%	5.3%

よくある・時々あると回答した人の割合

次に新規住民についてどのような事柄を知りたいと思うかを尋ねた(表 2)。山王は「騒音などの問題を起こす人か」や「ゴミ出し等の地域のルールを守るか」といった、自身が迷惑を被るような事柄に強い関心を示している。一方、雄和は「ゴミ出し等の地域のルールを守るか」、「近所付き合いに積極的か」、「地域活動に積極的か」に関心がある。地域の規範や住民同士の関わりへの積極性に関心があることから、コミュニティへの帰属意識が高い地域と考えられる。また、「人となり」や「家族構成」に関心があり、実際に交流する上で気にかかるであろう情報を求めている。大平台は全体に新規住民への関心が薄い。

表 2 新規住民への関心

新規住民への関心	雄和	大平台	山王
騒音などの問題を起こす人か知りたい	40.0%	39.4%	62.5%
ゴミ出し等の地域のルールを守る人か知りたい	70.8%	48.9%	73.6%
性格や人となり等、どんな人か知りたい	59.6%	39.4%	49.3%
引っ越してきた家庭の家族構成を知りたい	57.0%	32.6%	37.5%
近所付き合いに積極的な人か知りたい	45.3%	16.8%	34.7%
地域活動に積極的な人か知りたい	49.0%	17.9%	28.8%

思う・少し思うと回答した人の割合

キーワード：コミュニティ、ソーシャル・キャピタル、地域活動、意識調査分析

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1 番 1 号、TEL(018)889-2359、FAX(018)889-2975

次に、新規住民との交流意欲について尋ねた（表 3）。どの地域でも会釈や挨拶のような基本的な交流を行いたい被験者が多くを占めた。一方で、世間話をする仲になりたい、相談をしあう仲になりたいと回答した割合は、それぞれ 23.0%、25.3%であり、雄和が最も高い。同様に、一緒に買い物に行く仲になりたい、一緒に旅行に行く仲になりたいと回答した割合は、それぞれ 9.1%、4.2%で雄和が最も高い。雄和は買い物や旅行など、より親密な交流においても高い交流意欲を示している。

表 3 地区別の新規住民との交流意欲

新規住民との交流意欲	雄和	大平台	山王
会ったら会釈をする仲になりたい	92.1%	92.2%	89.6%
会ったら挨拶をする仲になりたい	92.0%	82.6%	83.8%
世間話をするくらいの仲になりたい	52.5%	30.8%	35.8%
悩みや困り事を相談しあう仲になりたい	23.0%	14.1%	6.1%
食べ物などのおすそ分けをしあう仲になりたい	25.3%	17.4%	9.1%
一緒に買い物に行く仲になりたい	9.1%	1.1%	0.0%
一緒に旅行に行く仲になりたい	4.2%	2.2%	1.5%

思う・少し思うと回答した人の割合

(2) 新規住民と知り合うきっかけと交流

新規住民への関心や交流意欲について因子分析を行った。目的は各地域のコミュニティの特徴を明らかにすることである。抽出された因子について、項目の平均値を地区ごとに示したものが表 4 である。その際アンケートにおける 5 択の回答を、最も肯定的なものを 5、最も否定的なものを 1 として平均値を算出した。ただし「新規住民との交流頻度」「近隣住民との関わりや意識」「地域の行動力への期待」「地域の課題認識」「地域課題解決への協力」については固有値 1 以上の因子が 1 つしか抽出されなかった。そのため、これらの項目は全ての設問の平均値を算出した。「新規住民への関心」の第一因子には「近所付き合いに積極的な人か知りたい」「地域活動に積極的な人か知りたい」等が含まれる。この因子を「コミュニティとしての関心」とする。第二因子には「騒音などの問題を起こす人か知りたい」「地域のルールを守る人か知りたい」が含まれる。この因子を「迷惑行為への関心」とする。「新規住民との交流意欲」の第一因子には「一緒に買い物に行く仲になりたい」「一緒に旅行に行く仲になりたい」等が含まれる。この因子を「強い関わり」とする。第二因子には「世間話をする仲になりたい」「挨拶をする仲になりたい」等が含まれる。この因子を「弱い関わり」とする。

雄和は全ての項目で高い水準となったが、新規住民との交流頻度に関して地域差はあまり見られない。また大平台、山王は新規住民との交流意欲について、「強い関わり」がそれぞれ平均値 1.86、1.89 であった。一方で「弱い関わり」は共通して平均値 3.84 であった。大平台、山王では会釈や挨拶などの基本的なコミュニケーションを継続的に行うことが、コミュニティの維持にとって重要と思われる。

表 4 新規住民への関心・交流意欲と因子

新規住民への関心・交流意欲と因子	雄和	大平台	山王
新規住民への関心(コミュニティ)	3.39	2.61	2.97
新規住民への関心(迷惑行為)	3.41	3.02	3.58
新規住民との交流意欲(強い関わり)	2.50	1.86	1.89
新規住民との交流意欲(弱い関わり)	4.20	3.84	3.84
新規住民との交流頻度	2.24	2.22	2.20
近隣住民との関わりや意識	2.75	2.17	2.11
地域の行動力への期待	3.68	3.24	3.30
地域の課題認識	3.66	2.94	3.43
地域課題解決への協力	3.50	3.22	3.35

Max:5.0 Min:1.0

図 1 に知り合うきっかけの有無と、新規住民と普段の挨拶をする被験者の割合(よくある、時々ある)の関係を示す。地域の共同清掃活動で知り合ったとする被験者では 80.0%が普段の挨拶を行っている。一方、その経験がない被験者では 59.0%となっている。これらには統計的に有意な差がみられる。同様に、「引越しの挨拶があった」「自分から挨拶をした」「向こうから挨拶をされた」についても、普段の挨拶に差がみられる。

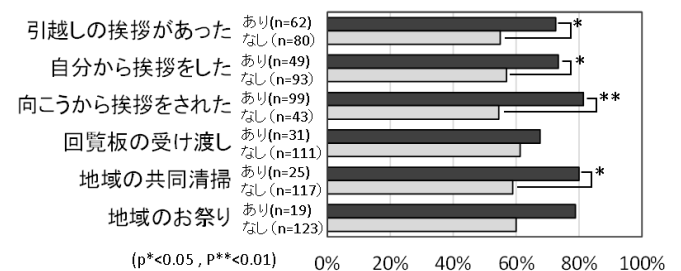


図 1 知り合うきっかけの有無と普段の挨拶をする人の割合

4. おわりに

意識調査では、新規住民を交えた交流や関心、交流意欲に地域差が見られた。雄和は新規住民との交流について、親密な交流に対しても意欲を持つ人が多いことが分かった。山王、大平台は会釈や挨拶など基本的な交流を求める傾向にある。また、新旧住民が知り合うきっかけの有無によって、その後の交流の頻度に違いが生まれることが分かった。挨拶などの基本的なコミュニケーションであっても、それが積極的に行われることで住民同士の交流に繋がるのが期待される。